

鹿島学園7度目V

県高校新人大会

サッカー女子の県高校新人大会は30日、水戸市のIFAフットボールセンターで決勝などが行われ、鹿島学園が明秀日立を2-0で下し、5大会連続7度目の頂点に立った。3位決定戦は霞ヶ浦が土浦二を下し、5位には水戸三が入った。

【女子】

▽5位決定戦
水戸三 3-0 石岡二・水戸三
海道二・愛

▽3位決定戦
霞ヶ浦 18-0 土浦二
12-0

▽決勝=35分ハーフ
鹿島学園 2-0 明秀日立
2-0

▽得点者 【鹿】大林(後半1分・後半26分)

鹿島学園・中野絢主将(2年) けがで出られない選手の思いも背負って戦った。後半は自分たちのやりたい形を出して勝つて良かった。

サッカー女子

ハイライト

細かく連係、こぼれ球制す



鹿島学園が明秀日立を突き放し、新チーム初の県大会を制した。前半苦しみながらも後半修正し、勝ちをもぎ取った。

た。

前半から猛攻を仕掛け相手ゴールに迫るも、得点は遠かった。試合が動いたのは後半開始直後。左CKを獲得すると、キッカーのFW大林亜未(1年)が放った球は見事な弧を描き、直接ゴールの右隅に吸い込まれた。26分にはベナルティエリア外で球を受

けたMF渡辺奈緒(同)が「まだ」と力強く右足を振り抜き追加点。相手の虚を突き、勝利をぐっ」と引き寄せた。

後半チームが意識したことは「密集して細かく連係すること」。複数人で守備を行う意識を高め、こぼれ球を制した。攻撃にもリズムが生まれ、試合のペースをつかんだ。中心を担ったのが大林とDFの中野絢主将(2年)。大林は相手に圧力をかけて突破を防ぎ、攻撃では起点となり得点に迫った。昼間健太監督(29)も「MVPの活躍」と話す。

中野主将はピッチ全体を統率。ともに守備をまとめる仲間がけがで離脱する中でも役割を全うし、相手に得点を与えなかった。

県内では王者の位置を築きつつあるが、2年連続で冬の全国選手権出場を逃す悔しさも知るメンバーたち。殊勲の大林は今季目標を「夏冬全国出場、4強入り」と力強く誓った。

(福本透也)

鹿島学園・明秀日立 後半、果敢に攻め込む鹿島学園のFW大林(左)＝IFAフットボールセンター